

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターあすいろ			
○保護者評価実施期間	令和7年2月5日		～	令和7年4月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	送迎を保護者をお願いしているので、行きと帰りで二度会う機会があり、保護者の毎日の困りごとなどを気軽に言いやすい。	保護者の困りごとや事情や学校のできごとについても、まめに聞くことができおり、それを職員間で共有して、事業所内でのようすもいいことも、悪いことも細かく伝えている。また、口頭だけではなく記録にも細かく児のようすを書いて保護者に送信している。	モニタリング会議や個別の面談でも家庭での困りごとなどを聞いていきたい。
2	専門職の職員がいるため、保護者もわからないことは専門職員に聞いてくれる。	訓練士や心理士にも活動に実際に入ってもらって、普段のようすや他児とのやりとりなどを見ることができている。	毎日の振り返りで、専門職員の気づきやアドバイスなどを積極的に聞いていき、スタッフが同じ目標を持って活動できるようにしていきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ガイドラインに沿って避難計画やBCPマニュアルや個別支援計画などを作成しているが、スタッフ全員には周知されていないことが多いと思った。	作成しているスタッフは知っているし、長くいる職員は知っているけれども、新しく来た職員やたまたまその時に不在だった職員は知らないままでのかもしれない。	計画やマニュアルを活用しながら、毎日の振り返りや研修を行っていき、マニュアルの存在を意識してもらう。
2	同様に避難計画やマニュアル、保護者交流会の開催について保護者も知らないことが多いことが分かった。	避難訓練や交流会などは事務所に張り紙をしたり、お知らせを発信したりしていたが不十分だった、避難訓練であればその日のご利用の保護者さんにだけ説明していた。	避難訓練についても連絡ソフトを利用して配信していく。年間計画などもわかりやすく伝えていきたい。
3	放デイは週に一度だけなので、児童の全体像をつかむのに時間がなかったり、毎日継続して関わる、と言うことができない。	週に一度の利用となるが、活動の主旨に沿ったプログラムを実践し、専門職の目線を取り入れながら活動に参加していきたい。	週に一度だけだが利用も数年に及ぶ利用者さんが多いため、保護者との信頼関係を培いながら、情報交換しつつ、児童の情報も伝えていけるようにしていきたい。